ascentech

リモートPCアレイ導入事例

弁護士法人 子浩法律事務所

Shikou LPC.







リモートPCアレイ 導入事例

サーバー共有型仮想化システムからリモートPCアレイへの移行でコスト削減と運用の内製化を実現

債権回収業務を専門とする子浩法律事務所では、業務オペレーターおよび事務担当者の作業環境として、長期にわたりサーバー共有型（SBC）の仮想デスクトップ環境を利用してきました。しかし、システムの更新を機に大幅なコスト削減とリソース競合の解消を目指し、アセンテックの「リモートPCアレイ」を採用しました。システムの刷新により、どのような課題が解決され、どのようなメリットがもたらされたのか、子浩法律事務所様および販売パートナー様に話を伺いました。

仮想化システムの老朽化と更新コストの高騰が契機に

同事務所は、回収ルームで業務を行うオペレーターと、各種手続きを行う事務担当者が、従来のサーバー共有型システムによる共通環境を利用していました。リプレースの検討は、従来システムの老朽化とライセンス更新費用の高騰がきっかけでした。

子浩法律事務所 情報システム室 グループマネージャ 水戸氏は、導入の経緯について次のように語ります。

「一番の理由はシステムの老朽化に伴うリプレースです。長年利用していた仮想化システムの更新時期を迎えたのですが、改めて試算したところ非常に高額でした。そこで、販売パートナー様からご提案いただいたのがリモートPCアレイでした。当時はまだリモートPCアレイの存在を知らなかったのですが、コストや機能面から検討を進めることになりました。」

共有型特有のリソース競合を排除し、「執務室にPCを置かない」セキュリティを両立

法律事務所として極めて機密性の高い情報を取り扱うため、セキュリティの確保は絶対条件でした。また、次期システムの選定にあたっては、以下の要件を満たす必要がありました。

- 執務室内にPC本体を置かず、データをサーバー室内に集約・保管すること
- サーバー障害時に全ユーザーの業務が停止しないこと
- 特定ユーザーの高負荷処理が、他のユーザーの動作に影響を与えないこと
- Windows11環境でマクロやプログラムを複数起動できるスペック

次期システムの要件について、水戸氏は当時抱えていた課題とともに説明します。

「当事務所の代表からの強い要望として『執務室内にPC本体を置きたくない』という方針がありました。リモートPCアレイであれば、データはサーバー室内の筐体に集約されるため、セキュリティ面で非常に安心できます。また、以前のサーバー共有型システムでは、サーバーが1台停止すると全ユーザーの業務が止まってしまうリスクがありました。さらに、特定のユーザーが高負荷なマクロ処理などを実行すると、他のユーザーの動作まで重くなってしまう課題もありました」

ラックサイズと予算の壁をクリア。「1人1物理カートリッジ」のシンプルさを評価

要件を満たす新システムの選定においては、販売パートナーとともに複数のソリューションが比較検討されました。

販売パートナーのｋｘｓ８．ｐｒｏｊｅｃｔ 早坂氏は、当時の製品比較について次のように振り返ります。

「選定の経緯としては、やはり従来の仮想化システムが高額だった

弁護士法人 子浩法律事務所 Shikou Legal Professional Corporation

企業名	弁護士法人子浩法律事務所
設立	1979年
従業員数	100名以上
所在地	東京都新宿区大久保2-7-17 晴和ビル
事業内容	少額債権回収を専門とし、クレジットカード会社や通信事業者、マンション管理組合などを対象に、債権回収業務を支援。マンション管理費・修繕積立金の滞納回収を含む幅広い債権管理サービスを提供しています。

https://shikou-lpc.com

ため、代替となる選択肢を探していました。当初は大手ベンダーの高密度サーバー製品なども検討したのですが、標準的なサーバーラックに対して奥行きが長すぎて収まらないというサイズ感の問題がありました。また、導入費用もかなり高額でした」

物理的なサイズ制約とコスト課題を両立できる製品として選ばれたのが、アセンテックのリモートPCアレイでした。業務内容に応じてハードウェアスペックを柔軟に選択できる点も採用の後押しとなりました。

早坂氏は、製品の優位性をこう説明します。

「リモートPCアレイは価格面で非常に優れており、サイズ感もラックに綺麗に収まりました。さらに、一般的な仮想デスクトップ（VDI）とは異なり、カートリッジ単位で物理的に1台ずつ独立しているため構成が非常にシンプルです。万が一の障害時も対象のカートリッジを交換するだけで済み、システム全体に影響を与えない点も評価し、採用に至りました」

また、水戸氏は業務に合わせた柔軟なスペック選定ができた点も評価しています。

「リモートPCアレイであればカートリッジごとに独立しているため、1人が高負荷な作業を行っても他者へ影響しません。また、Celeronモデルではやや処理能力に不足を感じていたため、Core iシリーズをベースとしたモデルを選定しました。業務内容に合わせて適切なCPUを選べる点も良かったです」

キッティングの内製化で展開スピードが向上、障害時もカートリッジ交換のみで復旧

1台の物理カートリッジを各ユーザーが専有する構成へと移行したことで、日々の運用効率は飛躍的に向上しました。運用体制の変化について、水戸氏は内製化のメリットを強調します。

「現在はキッティングツールを作成しているため、インストール作業自体はスムーズに行えます。以前の環境では外部の協力会社にセットアップを依頼していたため、対応までにタイムラグが生じていました。現在は内製化できたことで迅速に対応できるようになっています。また、ハードウェア故障時も該当カートリッジを1台差し替えるだけで復旧できるため、保守も非常に容易です」

ローカルにデータを一切保存できないシンクライアントと有線LANで実現する高セキュリティ環境

手元のクライアント端末には、Atrust製のデスクトップ型シンクライアントを一貫して採用しています。働き方の変化により無線LAN搭載モデルが主流となる中、端末選定のこだわりについて水戸氏はこう述べます。

「当事務所ではセキュリティ上の理由から、無線LAN（Wi-Fi）非搭載の有線LAN専用モデルを選定しています。最近はオフィス環境のフリーアドレス化に伴いWi-Fi標準搭載の端末が増えているようですが、当事務所のようにセキュリティを最優先し、有線接続のみを求める企業向けに、今後も無線LAN非搭載モデルの選択肢を維持していただけると助かります」

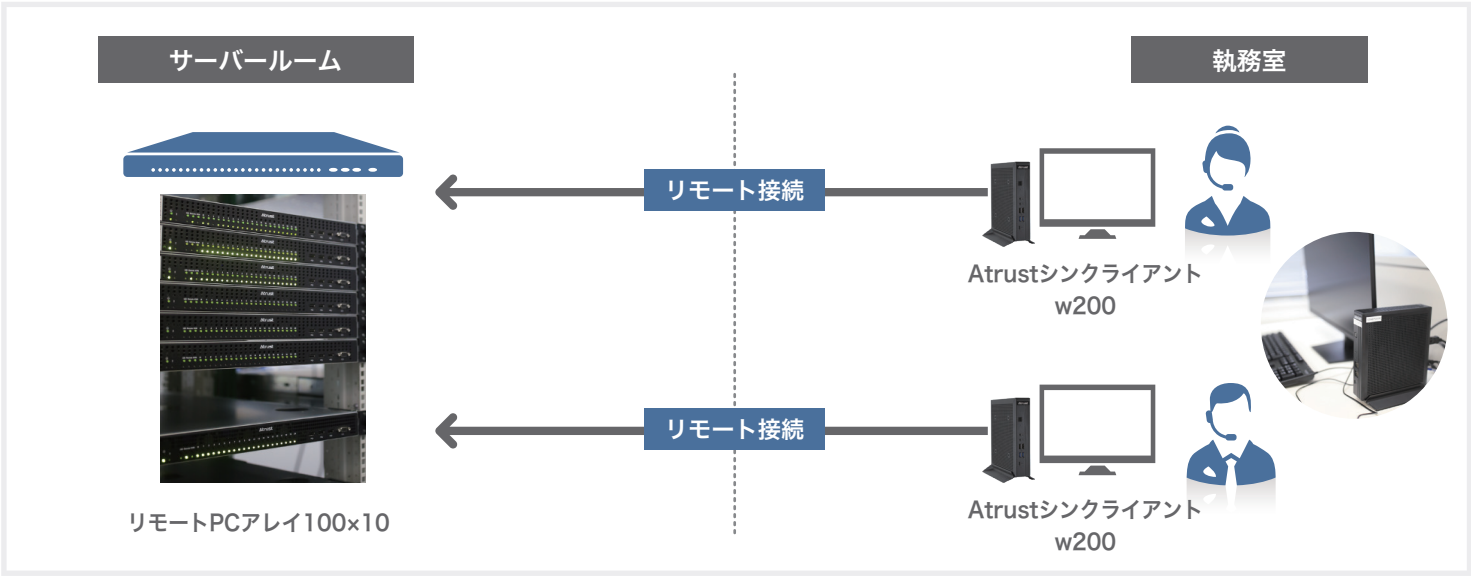
運用内製化と強固なセキュリティを実現、全所260台体制へ拡張

同事務所では、現在稼働している10シャーシ（200台）のリモートPCアレイに加え、さらなる拡張を計画しています。今後の展望について、水戸氏は次のように締めくくりました。

「毎年年末に来年度予算を策定しており、例年3シャーシずつ追加導入を進めています。現在10シャーシが稼働しており、今回の3シャーシ追加によって13シャーシ（260台）となります。これにより、事務所全体のほぼすべての端末をリモートPCアレイとシンクライアントへ移行完了できる見込みです。従来の仮想化システムで課題だったコストやリソース競合をクリアし、強固なセキュリティと運用内製化を同時に実現できたことは大きな成果でした。今後もアセンテック様やパートナーの手厚いサポートに期待しつつ、全所規模での安定稼働を維持していきたいと考えています」



構成図



アセンテック株式会社
Ascentech K.K.

〒101-0022 東京都千代田区神田練塀町 3 大東ビル 9F
TEL：03-5296-9331（代表）FAX：03-5296-9332
E-mail：eigyo@ascentech.co.jp

www.ascentech.co.jp

※本件に掲載する社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。